

自分軸を育み 他者とよりよく生きようとする児童の育成

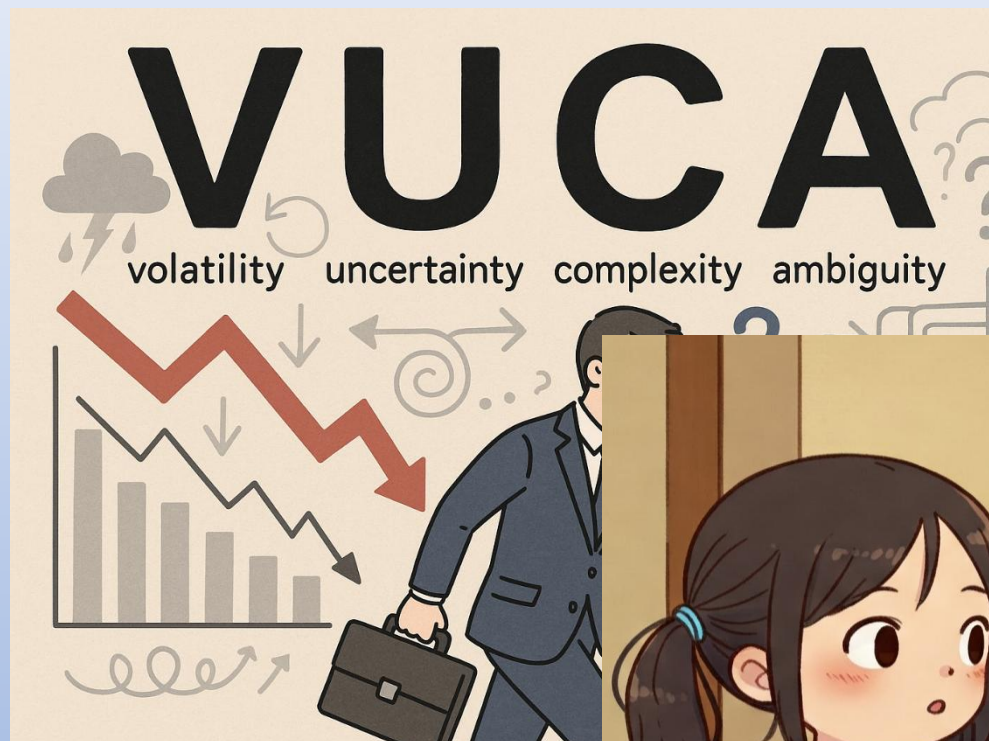
～道徳科における対話を通して～

南部広域行政組合島尻教育研究所 第62期研究員

新城小学校 屋比久咲

テーマ設定の理由

■ 教育の背景



報告書
PI



有効な手立て・・・対話活動

■ 対話活動のねらい

児童が**当事者意識**を持ち、
自らの考えを深める

多様な価値観に触れる
ことで思考を広げる



他者とよりよく生きていく術を身に付ける

現状と課題

■ アンケート結果より（令和6年度）

対話は楽しいし
参考になる



みんなの前では
話すのは難しい



課題と今後の方向性

■ 今後の方向性

- 小集団での**対話活動の工夫**が必要
- 他者の考えに耳を傾け、自己と向き合う力
（**自己内対話**）の育成

Ⅱ 研究の目標

「道徳科の授業において、協働的な対話を通して、
自分自身と向き合いながら自分軸を育み、
他者とよりよく生きようとする児童を育成する」
ための実践研究を行う。



Ⅲ 研究の方法

①実態把握

②検証 5 年

③対話活動の設定

教師はファシリテーター

④授業考察

⑤検証・まとめ

Ⅳ 研究内容

Ⅰ 特別の教科 道徳について

道徳科の目標は、

よりよく生きるための
基盤となる道徳性
を養う

(目的)

道徳的諸価値の理解

自己を見つめる

多面的・多角的な思考

自己の生き方への考えの深まり

(手段)

2 対話で育む自分軸について

自分軸

自分の**内部**にある**生き方の軸**
・ 生き方、価値観、人生観など
（方向：自己決定、納得する）
⇒ 例：流されずに自分軸で生きる

自分事

◇ 自分の**外部**との**問題の関わり**
・ 問題や課題、他の関係 など
（方向：当事者、責任を持つ）
⇒ 例：問題を自分事として考える。

→ 納得解



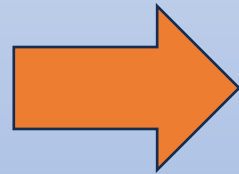
図1 自分事と自分軸の関係（永田を参考に作成）

浅見

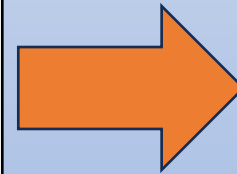
「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うためには、
子供が多様な感じ方や考え方に接することが大切である」

自己との対話

他者との対話

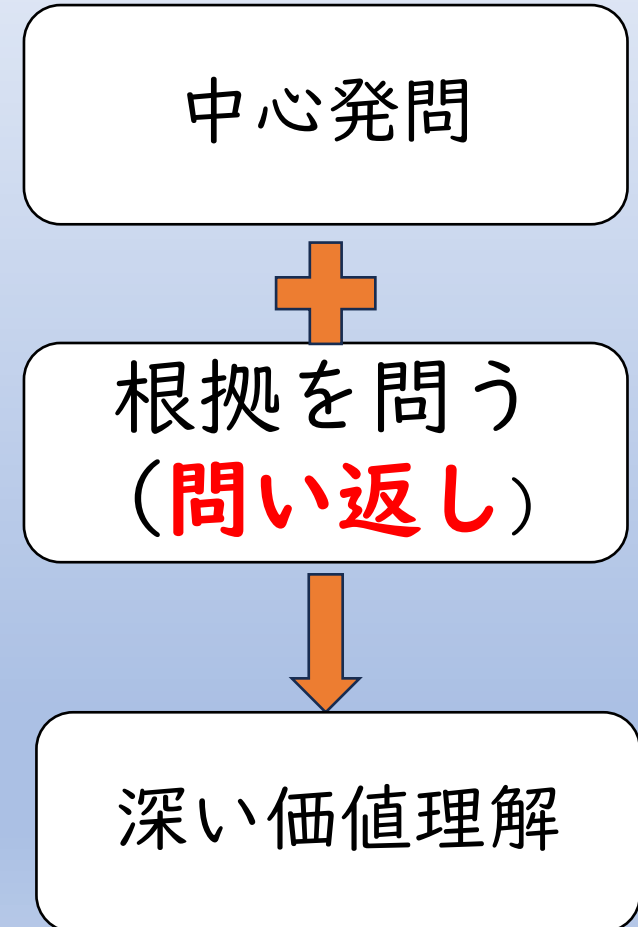


他者を尊重
自己を見直す



納得解
↓
自分軸

(1) 対話につなぐ発問構成



(2)対話を促すファシリテーション

掘は、「生徒が問題意識をもって学習に臨み、ねらいとする道徳的価値を追求し、多様な感じ方や考え方によって学ぶことができるようにするためには、**指導方法の工夫が大切**である」

ねらいに迫る発問構成
対話ができる雰囲気

教師の反応する力
授業を
ファシリテート



<ファシリテーター>

- ・ 児童の発言に傾聴
- ・ 介入は最小限
- ・ **構造的な板書力**
- ・ 伴走者としての心構え
- ・ 場の安全の担保
- ・ 自然体で話せるムード
創り

ファシリテーター（伴走者）の関わりポジション

【伴走者の心構え】

- ・ ポジティブな声掛けを心掛ける。
- ・ 言いたいことが言える雰囲気をつくる。
- ・ 児童の話し方や理解の速さにペースを合わせる。
- ・ 前に出て引っ張るようなことは避ける。
- ・ 信頼して対話してもらう環境をつくる。
- ・ 子どもの思いに寄り添って話を聞く。

永田繁雄

『子どもの「伴走者」に徹る授業をつくる。』を参考に道徳の場面に言い換えて作成

本気のファシリテートで、
本気の話し合いを目指す

自然体で対話するムード

V 本検証授業 研究の実際

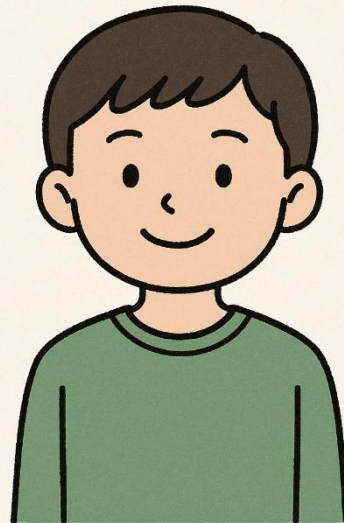
第5学年 道徳科指導案

(1)主題名「生活を見直す」【A 節度、節制】

(2)教材名「流行おくれ」（「新編 新しい道徳5」東京書籍）
価値観

安全に気を付けることや、生活習慣の大切さについて理解し、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心掛けること（学習指導要領より）

基本的な生活習慣
の意義を理解○
不規則な生活に
よって体調△
集中力△



自分の生活を振り返り
進んで見直し
望ましい生活習慣を
積極的に築く！
自ら節度を守り節制を心
掛ける！

(3) 本時の学習

① ねらい

登場人物の姿や思いについて**話し合うこと**を通して、自分の生活も見直す必要性を感じ、毎日の生活の中で節度を守り節制に心掛けようとする**実践意欲**を育てる。

② 学習指導過程

導入 5分	1. 今、欲しいモノについて話し合う。 ○今、欲しいものはありますか？ どうやって手に入れますか。 ・ゲーム機 ・洋服 ・パソコン ・本	○ねらいとする道徳的価値への方向 <u>付け</u>をするために、今ほしいものについて考える。(口頭)
----------	---	--

2. 教材について感想を話し合う。

○教材を読んで考えたことを伝え合おう。

- ・わがままだな。 ・新しい服を買うのはもったいない。
- ・部屋が汚いから物を無くすんだ。 ・整理整頓した方がいい。
- ・自分も同じ経験があります。自分も我慢しようと思いました。
- ・お母さんも弟も困っている。

○まゆみさんの何が問題なのですか。

- ・自分の欲望のままに行動している。
- ・周りの人のことを考えていない。自分勝手。

対話①

○教材を読んで思ったことを話し、伝え合わせる。

報告書
P6

○同時に板書し場面整理を行う。

みんなはまゆみさんを批判してるけど、まゆみさんに何か問題があるの？

展開
25分

◎物を欲しがるのはいけないことなのでしょうか。

・ほしいと思うのはいいけど・・・

全部を買ってほしいと言いきすぎるのはよくないと思う。

・必要な物だったらいいと思うけど。

○「分かっているけれど、」

物を欲しがることは
いけないことなので
しょうか？ 対話②

多面的・多角的思考の深まり)

●児童の発言に応じて、意図的な問い

●手に入れたいものは全て手に入れた方がいいんじゃないですか。

・周りが困ってしまう。・お金は無限ではない。

・なんでも取り入れてしまって、物の有難みを知らない。

・だから、自分をコントロールしないといけない。

問い返して更に客
観的に考え、思考
を深める。

☆自分の生活についても考える。

○こうしたいけど我慢しないといけない場面は買うこと以外にも
ありますか？生活の中でもっとありますか？どんなことですか？

・(ゲーム/眠る)、(遊びたい/宿題)、(遊びたい/掃除)

☆自分の欲望を制御し、我慢、忍耐を
する場面を振り返り、自分事として考
える。

自分事で捉える
自分→対話③

終末
ー
5

3. 学習の振り返り

・これからは自分の思いだけではなく、家族とか周りの人のことを

多様な考えを取り入れた
上で、自分軸を育む時間

☆本時の学習を振り返り、自分の生活
を見直し、これからよりよい生活を送
るために大切なことは何かを考えて
いる。(ノート)

Ⅵ 実践のまとめ

Ⅰ 多様な思考に触れる対話

感想交流

基本発問

中心発問時の

自己・他者との対話

3～4人の小集団

全体共有（多様な価値に触れ、思考が深まる）

児童同士お互いの顔を見合えるよう座席の工夫



実際の対話（小集団グループ対話の記録）

【A】

A1 「俺もさ、これさお母さんに言われたことあるよ。買ってもらえるのが当たり前だと思っているんだよね。買ってもらっているのに感謝してないんじゃないかな」

気楽に話ができている

A2 「あー、なるほど。感謝が足りないんだね」

A3 「確かにねー」



実際の対話（全体交流内の記録）

【B】

B1 「お金を使いすぎて、周りに嫌われるんじゃないかな」

B2 「お母さんにほしいほしいって言ってて将来使いすぎて、知り合いからお金貸してって」

B3 「あー悪い方に全部いくってことかー」

複数「うわー」

B4 「周りから人が居なくなりそう」

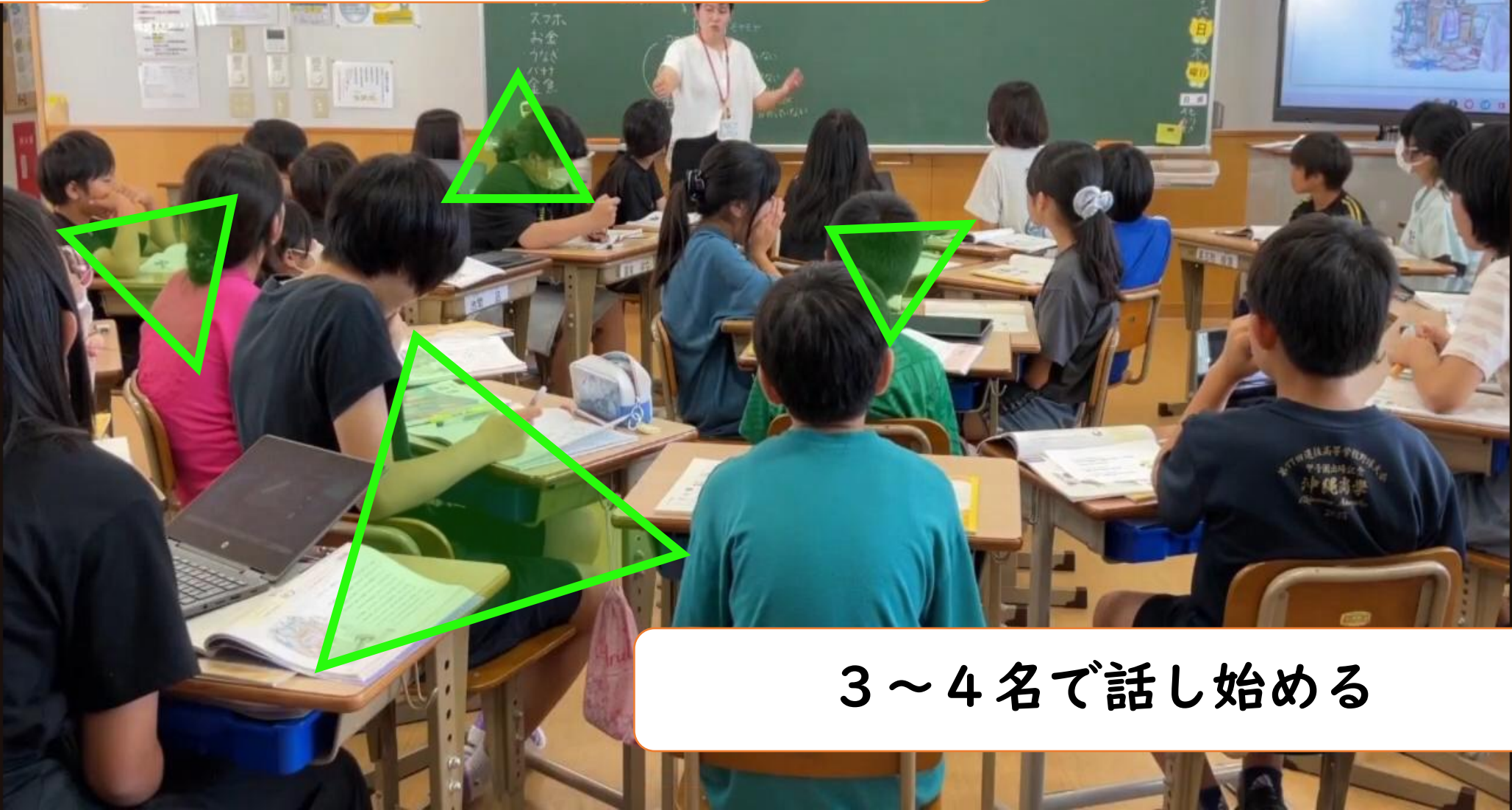
B5 「散財したら周りから人が居なくなって最終的には一人になっちゃう」

グループで話し合われたことがつながり、思考を深めている



実際の対話（小集団グループ～全体交流内の記録）

先生「どうして？近くの人と、どうぞ。」



3～4名で話し始める

実際の対話（小集団グループ～全体交流内の記録）

人に迷惑をかけてまで自分がほしいと思うのをやっているのはダメだと思う。

そろそろ全体で共有してもいいですか。誰からいきますか。

あ～

うんうんうんうん

あ～そっか

あ～

将来困るから。

あ～～たしかに～

あ～俺もそう思う

あ～

2 思考や対話を生みつなぐ発問構成

	発問	意図	児童の反応	妥当性・考察
①	感想 「感想交流をどうぞ」	場面整理をしながら児童の率直な感想を引き出し、発問になる言葉を探す。	主人公のまゆみ、弟、母に対してそれぞれの立場で考え内容を捉えていた。	児童の率直な感想が出ると同時に場面整理ができたので妥当である。また児童の感想を基に次の発問へと繋げていた。
②	基本発問 「まゆみさんは何が問題なのでしょうか」	まゆみに焦点化して、価値に触れさせる。	物欲に関する反応が多い。	節度節制の価値には触れているが、物欲に関しての意見が多く多面的・多角的には触れられていない。
③	中心発問 「ものを欲しいと思うのは良いことだが、何がいけないのでしょうか」	小集団で話し合うことで自分の考えを深める。全体で交流し、多様な考えに触れる。	ロ々に相談し始めた。いいことなんだけど・・・続きを上手く言語化できていない。 自分の生活に照らし合わせながら自分事として考えていた。	価値を追究し始める児童の姿から、中心発問としては妥当。 物欲以外の感情のコントロール、金銭感覚、整理整頓などの節度節制に関する価値が多面的に表されていた。
④	生活に振り返る 基本発問 「生活の中で買うこと以外に感情をコントロールしたり、我慢したりする場面はどんなことがありますか。」	教材から離れ自分事として考えさせる。	反応が薄かった。 「えーなんだろう。」 「何かある？」 「うーん、旅行とか？」	具体的に場면을イメージさせる発問がよかった。例えば「このクラスにもゲームをしている子がいたよね」といった場面提示があれば、自分の生活との関連で考えやすくなるだろう。

2 思考や対話を生みつなぐ発問構成

	発問	意図	児童の反応	妥当性・考察
①	<u>感想</u> 「感想交流をどうぞ」	<u>場面整理</u> をしながら児童の <u>率直な感想</u> を引き出し、 <u>発問になる言葉</u> を探す。	主人公のまゆみ、弟、母に対してそれぞれの立場で考え内容を捉えていた。	児童の <u>率直な感想</u> が出ると同時に <u>場面整理</u> ができたので妥当である。また児童の <u>感想を基に次の発問へとつな</u> げていた。

2 思考や対話を生みつなく発問構成

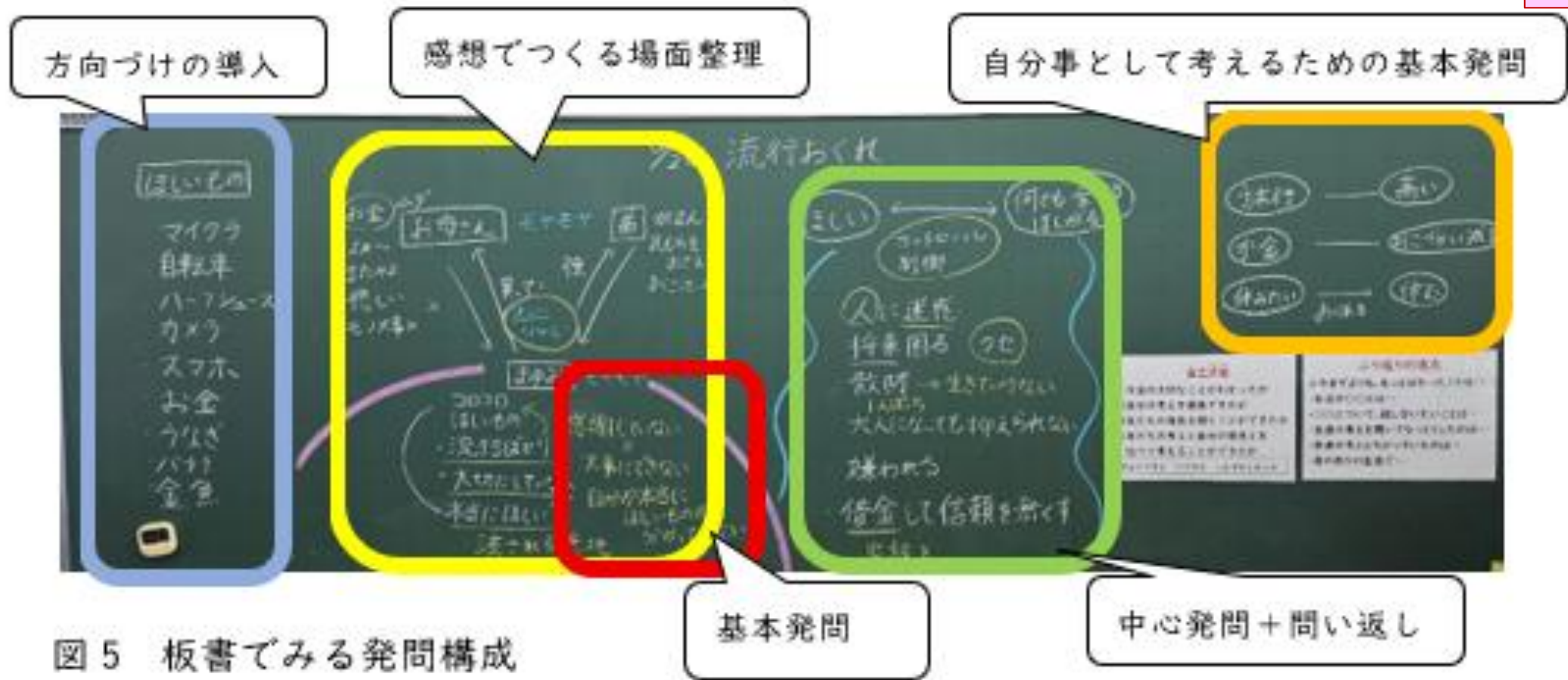
	発問	意図	児童の反応	妥当性・考察
②	<u>基本発問</u> 「まゆみさんは何が問題なんでしょうか」	<u>まゆみに焦点</u> <u>化</u> して、価値に触れさせる。	<u>物欲</u> に関する反応が多い。 物欲ばかりで、一面的	<u>節度節制の価値</u> <u>には触れている</u> が、物欲に関する意見が多く <u>多面的・多角的</u> <u>には触れられていない。</u>

2 思考や対話を生みつなぐ発問構成

	発問	意図	児童の反応	妥当性・考察
③	<u>中心発問</u> 「ものを欲しいと思うのは良いことだが、何がいけないのでしょうか」  多面的・多角的に考える	小集団で話し合うことで自分の考えを深める。全体で交流し、<u>多様な考えに触れる。</u>	<u>ロ々に相談し始めた。</u>いいことなんだど・・・ 続きを上手く言語化できていない。 自分の生活に照らし合わせながら自分事として考えていた。	<u>価値を追究し始める児童の姿から、中心発問としては妥当。</u> <u>物欲以外の感情のコントロール、金銭感覚、整理整頓などの節度節制に関する価値が多面的に表されていた。</u>

2 思考や対話を生みつなぐ発問構成

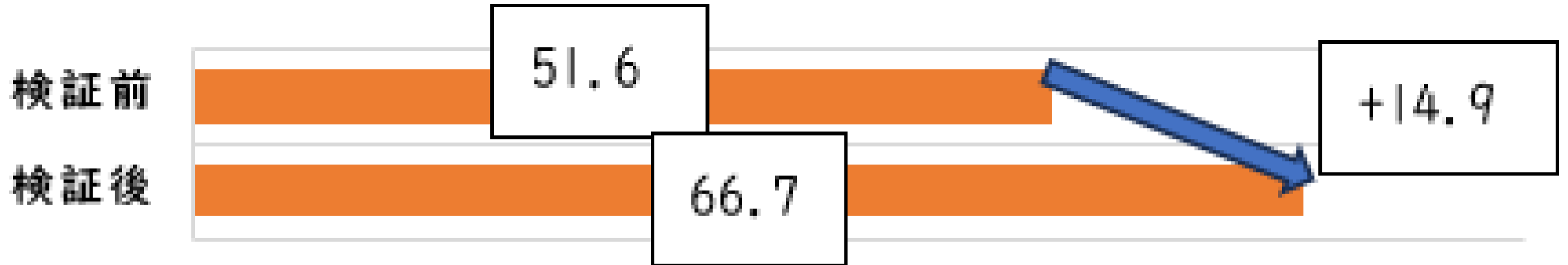
	発問	意図	児童の反応	妥当性・考察
④	<u>生活に振り返る</u> 基本発問 「生活の中で買うこと以外に感情をコントロールしたり、我慢したりする場面はどんなことがありますか。」	教材から離れ<u>自分の生活と関連させ、自分軸を</u>育む。 	反応が薄かった。 「えーなんだろう。」 「何かある？」 「うーん、旅行とか？」	<u>具体的に場面をイメージさせる発問の工夫が必要。</u> 例えば「このクラスにもゲームをしている子がいたよね」といった場面提示があれば、自分の生活との関連で考えやすくなるだろう。



- ・ 発問一つで児童の思考は深まり、自分の生き方を見つめ直すきっかけとなる。
- ・ 深い価値理解を促すための発問構成の重要性を改めて実感した。

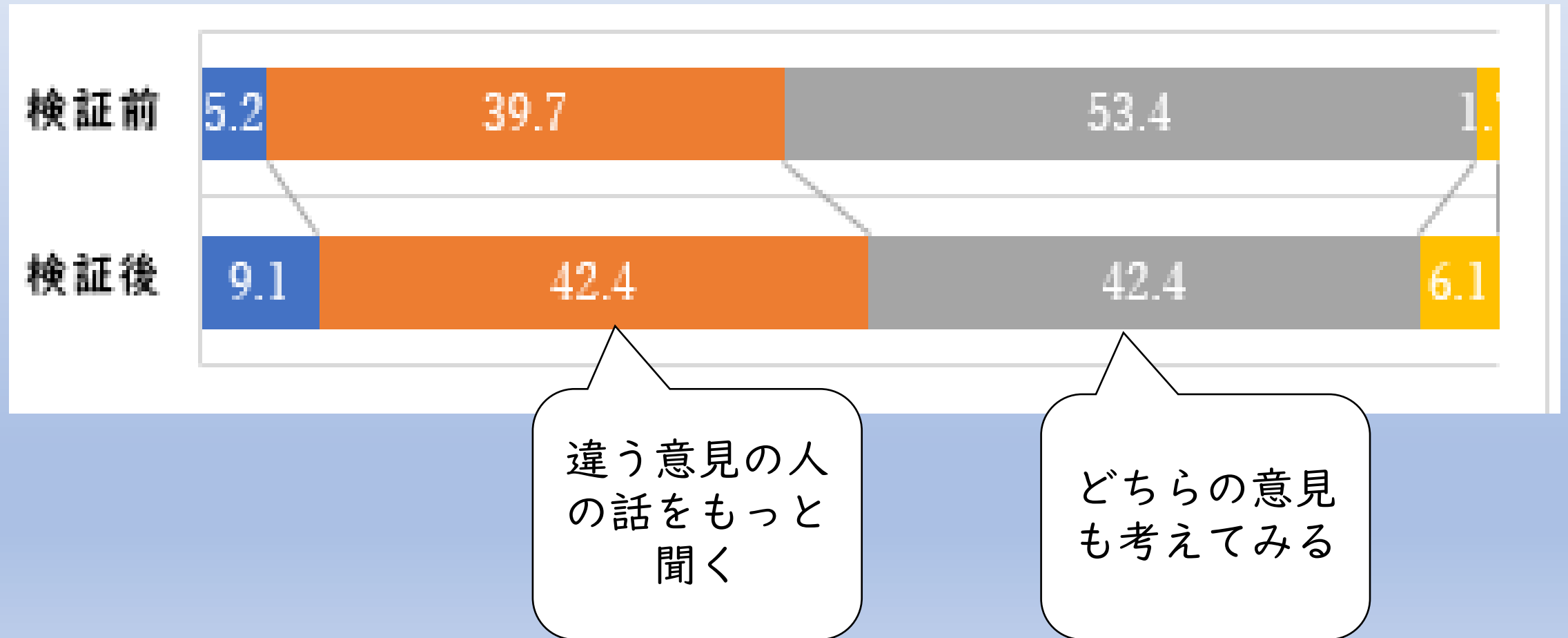
3 対話の児童アンケートの結果 「みんなで話し合うことについてどう思うか」

■ 自分とは違うけど、どの考えもいいなと思うと回答した児童

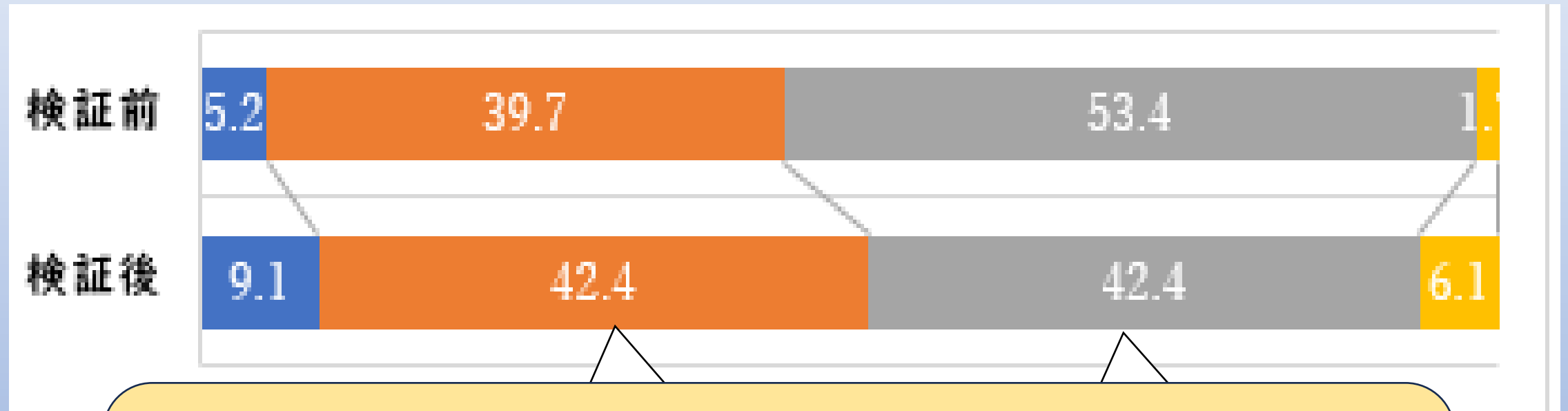


多様な価値に触れ、思考を広げている。

3 対話の児童アンケートの結果 「自分と違う意見が出た時、どうすることが多いか」

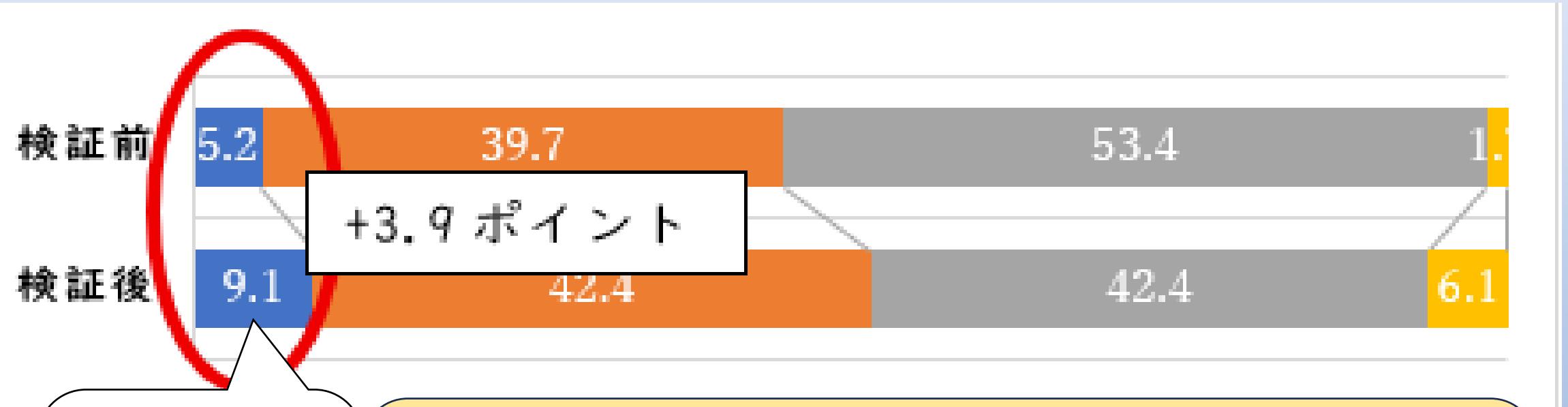


3 対話の児童アンケートの結果
「自分と違う意見が出た時、どうすることが多いか」



異なる考えを受け止めようとする姿勢が育まれている

3 対話の児童アンケートの結果 「自分と違う意見が出た時、どうすることが多いか」

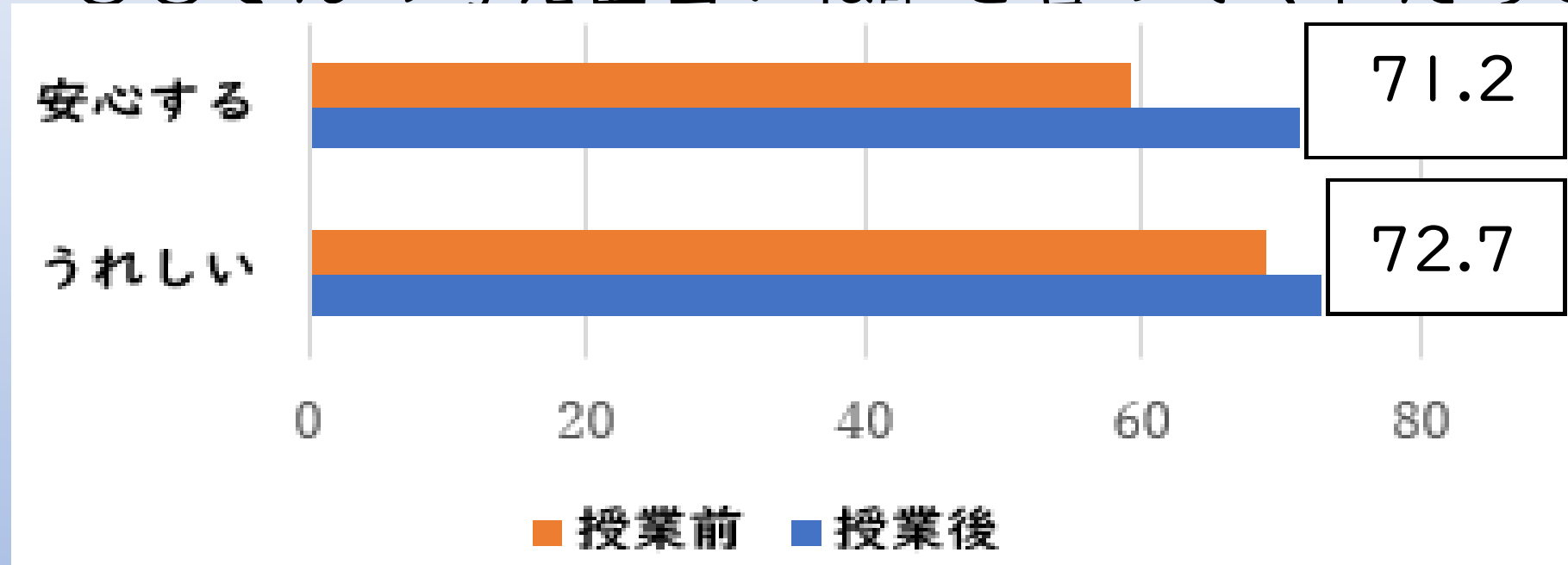


自分の考えを
もう一度言う

自分の意見にも価値があると捉え、
自信を持って伝えようとしている

3 対話の児童アンケートの結果

「自分が話したことについて他の人が『それはいいね』
『〇〇さんの考え面白いね』と言ってくれたらどう思うか」

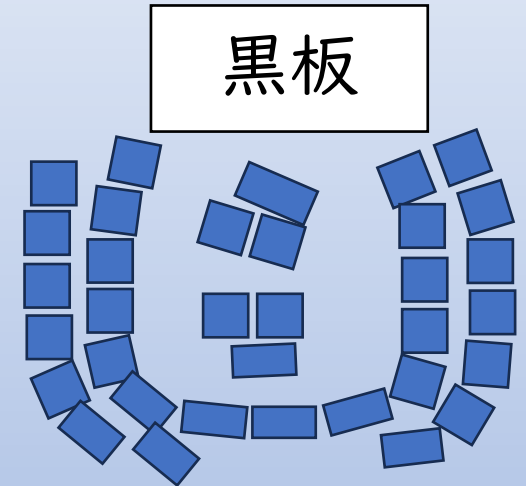
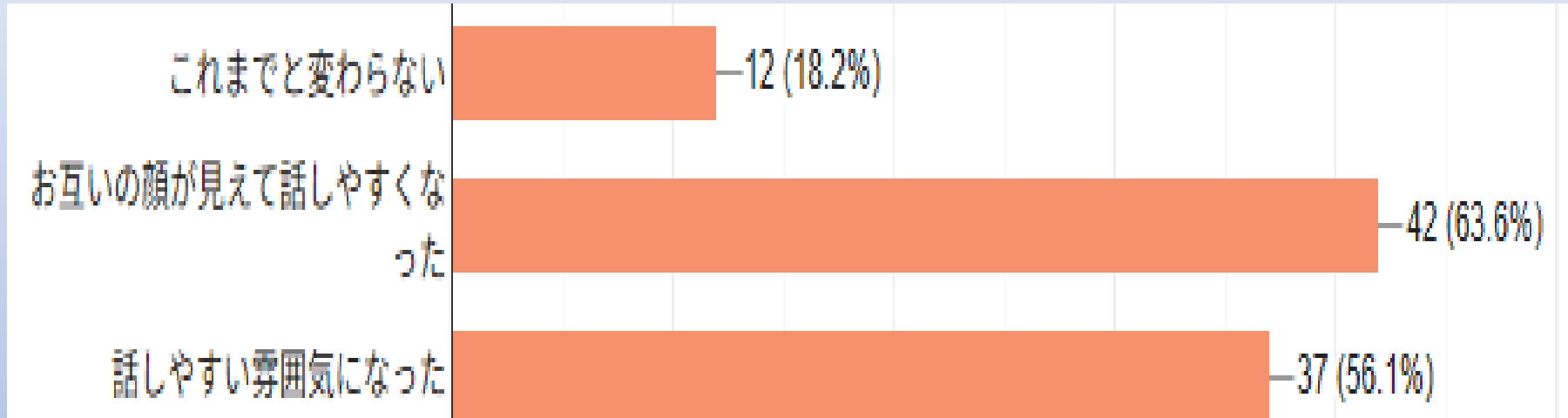


授業後
7割を
超えた

自他の意見を尊重しながら対話を進める姿が見られ、
他者とよりよく生きようとする力が育まれている。

3 対話の児童事後アンケート

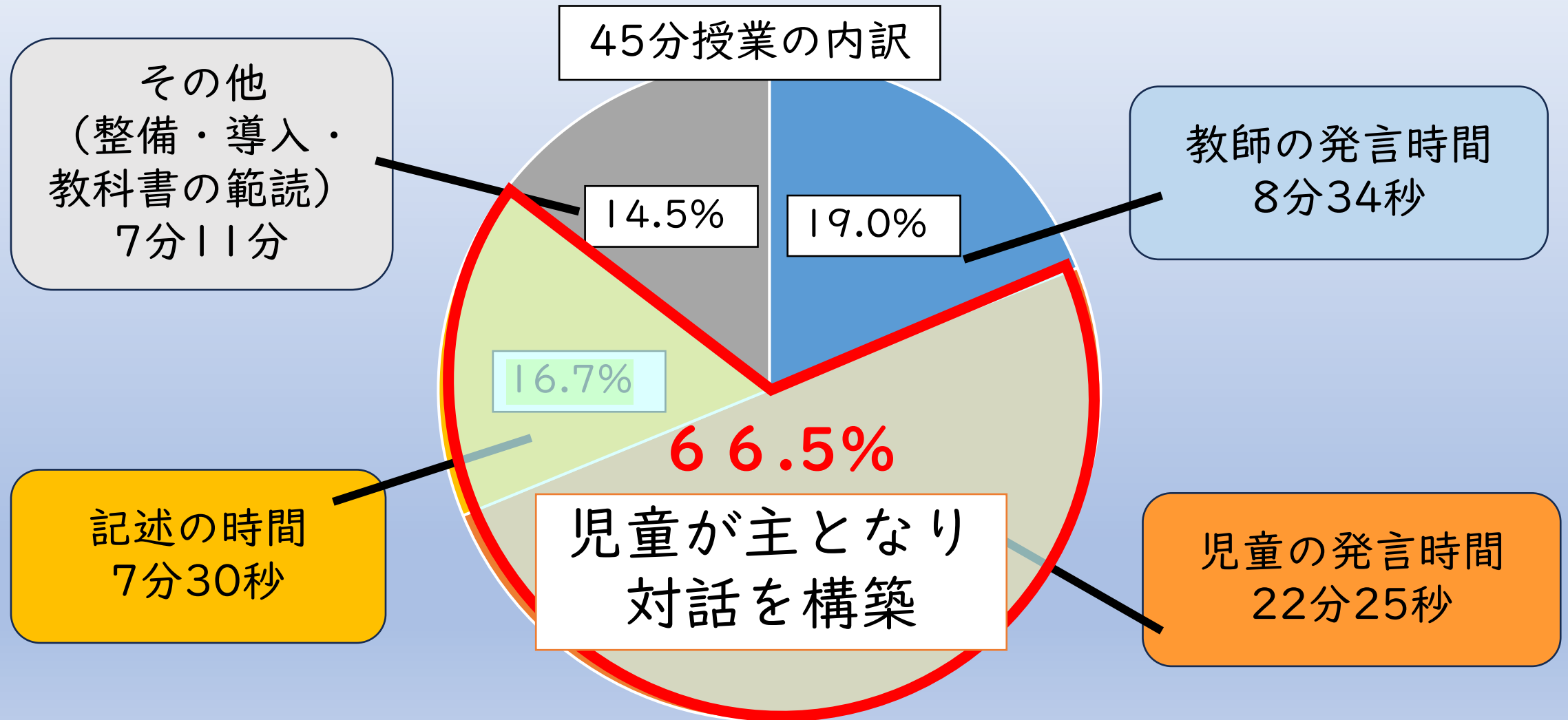
「座り方について、お互いの顔が見えるように座ること
で、これまでと話しやすさに変化がありましたか」



対話のしやすさを高める手立て
として、**互いの顔が見える座席
配置は有効**



4 教師のファシリテーションで高める児童の主体性



教師は「伴走者」として、
対話がしやすい雰囲気づくりを行う

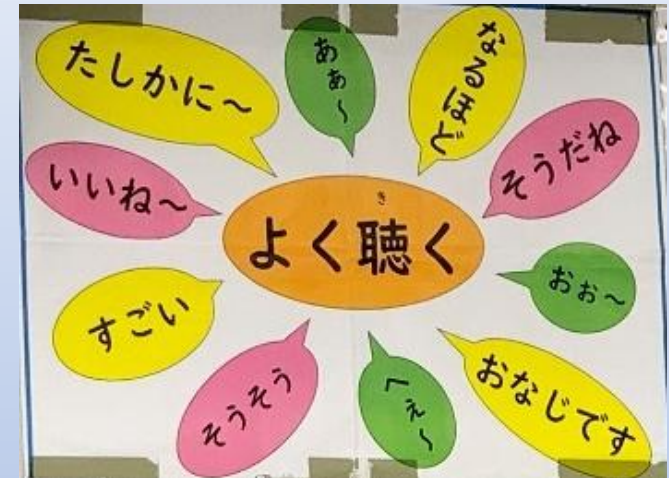
道徳って

考える

- 自分のこと
人との関わり
自然・社会のこと
命のこと

対話
ポイント
のまとめ

- 01 よく聴いて、反応する
- 02 何を伝えようとしているのか考えながら聴く
- 03 話す、理由も伝えよう
- 04 話をつなぐ
- 05 話し合いの中心は私たち



対話（話し合い）についてのアンケート

話し合うことについて質問していきます。気軽に答えてくださいね。（所要時間5分）

近くの人と話し合いが落ち着いてきたら

- ・そろそろ全体で共有してもいいですか。
- ・だれからいきますか。

話し合いが止まってしまったとき

- ・他に言える人いますか。

近くの人と話したいと思ったとき

- ・ちょっと話し合ってみますか。



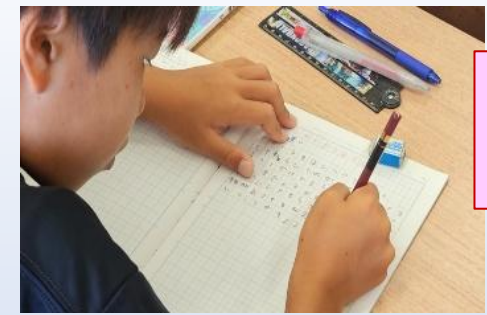
5 自分軸を育てている姿～振り返りより～

Cさん

今日の学習で大切だと思ったことは、生活を振り返ることです。なぜなら、本当にほしいものなのかよく考えることで、自分のすきか分かると思います。だからです。なので、まゆみさんが、服を何度もかっともらったのは、自分の好きではなくて、みんながかっかいたからだと思いました。これからは、自分の生活を見直していきたいと思いました。

Dさん

今日わたしが今までよりも、と分かったことは、「まゆみ」のように「ほしい」という気持ちをコントロールできなかつたり、せいぎふできなかつたりして、何でも全部ほしかつたりすると大人にな、でもその気持ちをおさえられないで周りの人から信頼をなくすかもしれないということです。だから、「ほしい」ということは悪いことじゃはいけぬがかまんとすることは大切だな、と思いました。

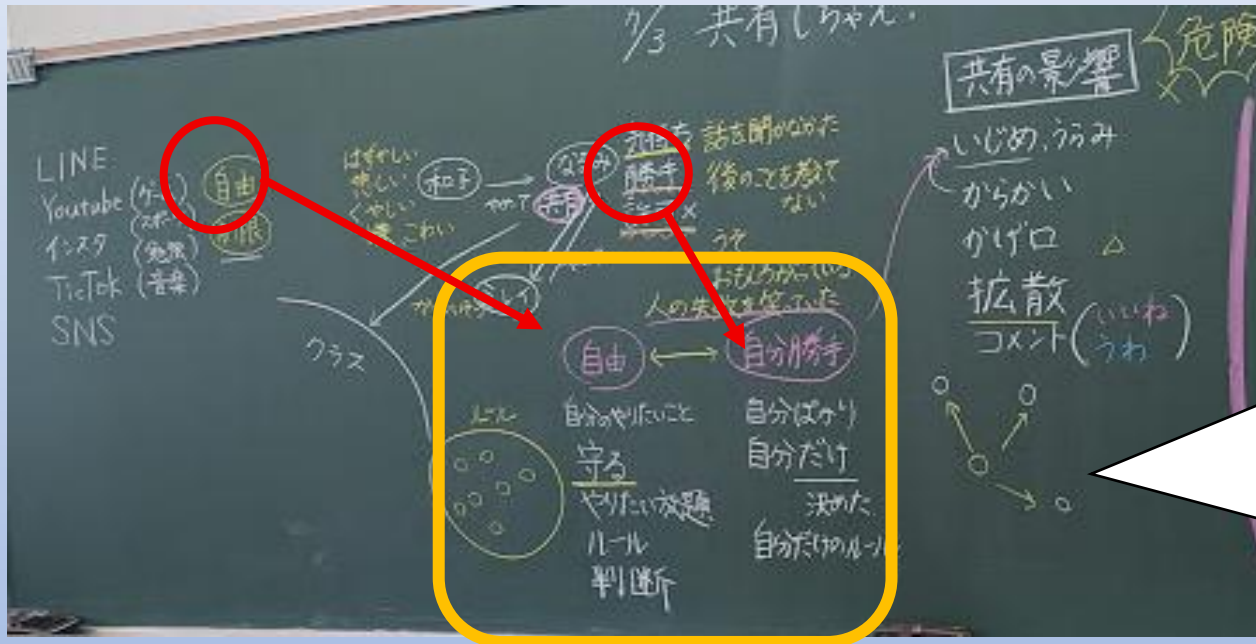


報告書
P10

- ・自分の生活を見直そうとする姿や、他者との関わりを意識しながら、これからの生き方を想像し、その思いを丁寧に書き留める姿が見られた。
- ・児童の内面に根ざした学びが言語化→自分軸を育む児童の姿が見られた。

【検証授業Ⅱ】対象学級：5年2組

- 1 主題名「責任ある行動とは」【A 自由と責任】
- 2 教材名「共有しちやえ」（「新編 新しい道徳5」東京書籍）



児童の言葉で発問を構成し
→対話を促した

○自由と自分勝手の違いについて、
本時の中で明確な区別をすることは
できなかったが、対話を通して
「自由」は自分勝手とは違うとい
うことに気付いていた。

〈授業の反省〉

- ・ 児童の発言をつないで発問を組み立てることができた。→ファシリテーター○
- ・ 時間△、児童が多面的・多角的に思考し対話しようとした→発問構成○

【検証授業Ⅲ】 対象学級：2年1組、2組、3組

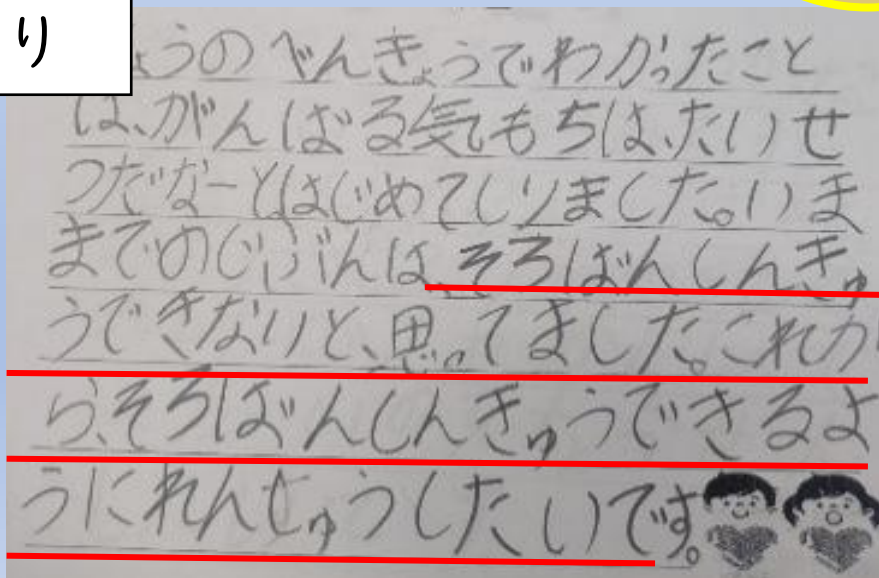
- 1 主題名「やりぬくところ」【A 希望と勇気、努力と強い意志】
- 2 教材名「さかあがりできたよ」（「新編 新しい道徳1」東京書籍）

報告書
P11



- 挿絵を活用して場面整理と心情理解。
- 自分の生活につながる物語も多い。
実生活とリンクさせたり書けなくても自分の口で言える場面を作っていたりするとよい。
- 自分のことを話すことが楽しい。

○ふりかえり



〈授業の反省〉

- ・視覚的ツールを活用
→教材理解、気づきから対話につながる
- ・自分の思いを伝えるには不十分
→ファシリテーターの教師が言葉を補う
- ・振り返りの確保・交流
→他者受容と自分軸を育む

★低学年でも自分軸を育むことができた

(1)



対話で多様な価値に触れて思考を広げた

(2)



自分を見つめ直し、
各々の自分軸を育む

(3)



教師は伴走者として、
児童主体の授業へ

課題

(1)



教材と生活を結びつきを意識した言葉かけ

(2)



語彙力の向上や児童の頑張りを評価

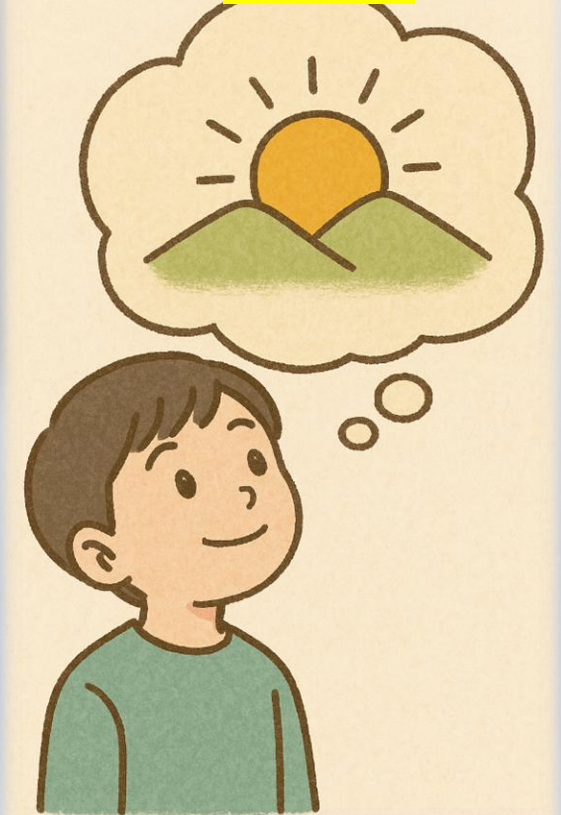
VII 今後の展望



好き

楽しい

未来



発達段階を踏まえて明確な指導観のもと
児童の言葉に寄り添いながら、柔軟にファ
シリテートしていきたい。

自分軸を育み 他者とよりよく生きようとする児童の育成

～道徳科における対話を通して～

南部広域行政組合島尻教育研究所 第62期研究員

新城小学校 屋比久咲

